

2020年6月6日

一般財団法人アジア政経学会 2019年度の事業報告

理事長 高橋伸夫（慶應義塾大学）

アジア政経学会は2019年4月1日から2020年3月31日の間、以下の活動を行った。

1. 大会の開催

2019年6月8日～9日に春季大会を慶應義塾大学三田キャンパスにおいて開催した。7つの自由論題セッション（学会員の個人報告をグルーピングしたもの）、2つの自由応募分科会（学会員からの提案を受けて設置された分科会）、1つの共通論題セッションが設けられ、さらに樫山奨学財団の支援による国際シンポジウム（樫山セミナー）が実施された。

共通論題のテーマは「天安門事件30周年——1980年代中国からの問いかけ」であった。2019年6月に春季大会が開催されるとあって、天安門事件に焦点を当てたこの共通論題は、同事件の発生を念頭に置いて、それに至る1980年代の中国の政治的、経済的、社会的過程を再検討するという趣旨のもとに企画された。

樫山セミナーでは「アジアの中の東南アジア研究——アジア域内の相互関係はいかに論じられてきたか？」をテーマに、中国、タイ、インドネシア、イギリスから研究者を招聘し、アジアにおける東南アジア研究にはどのような特徴と課題があるのかにつき意見を交わした。

秋季大会は2019年11月30日（土）に南山大学（名古屋市）で開催された。6つの自由論題セッション、2つの自由応募分科会、1つの共通論題セッションが設けられた。共通論題のテーマは「東アジアと歴史認識・移行期正義・国際法——徴用工問題を中心として」であり、戦後最悪といわれる日韓関係について、日韓二国間の関係のみならず、国際法、他地域の経験など幅広い視野から検討を行った。

これらの情報は、学会の公式HPを通じてアクセスできるようになっている。

<http://www.jaas.or.jp/index.html>

2. 学会誌の発行と公開

学会誌『アジア研究』は、第65巻第2号から第66巻第1号まで4冊を刊行した。とくに刊行が遅れることもなく、刊行ペースを維持することができた。

2019年4月に第65巻第2号を刊行。論説1本、研究ノート1本、書評5本。

2019年7月に第65巻第3号を刊行。論説2本、書評5本。

2019年10月に第65巻第4号を刊行。論説1本、研究ノート1本、書評4本。

2020年1月に第66巻第1号を刊行。論説2本、書評4本。

収録論文などは、J-Stage を通じて自由にアクセスすることができるようになっている。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/asianstudies/list/-char/ja>

3. ニュースレターの発行

ニュースレターは2019年9月に第52号、2020年2月に第53号を刊行。大会参加記や入退会者情報などを会員に提供した。

4. 定例研究会

2019年12月21(土)の午後1時から2時50分にかけて、慶応義塾大学三田キャンパス、東アジア研究所会議室において第22回定例研究会が開催され、2名の若手研究者による報告が行われた。2020年3月1日(土)午後にも福岡市の九州大学西新プラザにおいて第23回の研究会開催が予定されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため延期となった。

5. 顕彰事業

本学会の学会誌に掲載された若手研究者の論文を中心に、毎年、優秀論文を選考する顕彰事業を行ってきた。今年度(第16回優秀論文賞)は荒哲会員による「日本占領下フィリピン周縁社会の忘れ去られた民衆間暴力——レイテ島の対日協力準軍事組織の活動をめぐって」(『アジア研究』第64巻第3号掲載)が受賞対象作品となり、春季大会において授賞セレモニーを行った。

6. その他

2019年秋、本学会の会員が北京で中国当局により拘束された事件に関して、理事(および元理事)有志という名義により、二つの声明文を学会ホームページに掲載した。また、この声明を発出した経緯につき、ニュースレター第53号において理事長名で説明を行った。

以上

